

# 打って、拾って、楽しんで!!



## 24時間ソフト 8月22日~23日 南小学校グラウンド



第655号  
 発行人●豊丘村公民館 唐澤克己  
 編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (9月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,365人  
 女 3,491人  
 総人口 6,856人  
 世帯数 2,105戸

**ソフトボール**  
 第二分館 今村公彦  
 二年越しの想いが届いたのか、暑すぎる日差しの下、無事分館球技大会が開催されました。

お盆恒例の分館球技大会が八月十五日(土)の午前中開催され、野球とソフトボールには六つの分館六チームが、ソフトバレーには四つの分館六チームが出場優勝を飾ったのは、野球が第四分館、ソフトボールが第二分館、ソフトバレーは第一分館Bだった。

### 熱闘・分館球技大会

豊丘に籍がありながら体育部員の役を引き受けるまでは、このような大会が毎年行なわれていた事すら知らない非村民が担当したのはソフトボール。と言っても前日準備、そして当日は補佐的な事を少しやっただけで、あとは選手の方々が進行、審判、全部テキパキとやってくれ、こちらは観客で観戦。好プレーあり、珍プレーあり、驚いたり、笑ったり楽しいひとときを過ごさせてもらった球技大会でした。

**ソフトバレー**  
 第一分館B 中村清美  
 河野では水曜日の夜になると、北小体育館で二十、五十代の主婦が集まり「河野フレンド」というチームを作りソフトバレーを楽し

どのチームも人集めが大変だったのではと思ったのですが、責任者の方を中心に各分館非常にまとまりが良く、地域のつながりの強さを再確認できたと同時に、この先もずっと継続させていかなければいけないと感じました。

「分館対抗球技大会」には「河野フレンド」を中心に毎年参加させていたたいおります。日頃から気心の知れた仲間との息の合ったプレーでこの度も好成績を収めることができ、同日夕方から行われた「かわの夏祭の席で楽しく美味しい慰労のお酒



を味わうことができました。一年を通して北小体育館に明かりが灯り、熱戦と笑い声が響いています。

「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」で、結局は便利な技術を人の判断で何処で使用するかを見極めることだと思ふ。  
 (桐崎長一)

## 第27回 24時間ソフトボール大会

# 257対207でこぶしチームが優勝

### 総イニング数122回 ホームラン数92本

**24時間ソフトを終えて**  
 中芝 河合祥吾  
 少年野球の頃から参加している豊丘村二十四時間ソフトボール大会に今年も参加させて頂きました。

今年度は、二十三日に軟式野球豊丘クラブの試合があったため、二十三日の早朝までの出場となりました。それでも合計で六試合に出

今年の大会は、昨年より四チーム少ない三十六チームが参加。一試合あたり八十分と長めの持ち時間で百二十二イニングを消化した。深夜から未明にかけて出場した若者チームの中には、一人で六試合に出場する強者や、打席のたびにホームラン賞を獲得する選手もいて大いに盛り上がったが、最多得点は農業委員会の二十六点だった。

近年では二十四時間ソフトもそうですが夜間ソフトの方も出場チームが減少している厳しい状況です。しかし、今年も自分と同じ世代の若い人達や、女子高生のソフトボールチームなど、村内だけでなく村外からの参加者、参加チームが増えたと、より活気のある大会になっていくと思えます。

自分が小さいころからある二十四時間ソフトボール

場しました。一試合八十分という少し長く感じる試合時間の中で、未経験者が多くなかなかアウトが取れず、守備の時間が長かった試合や、味方の打線が繋がって攻撃が終わらずたくさん打った試合や、珍プレー・好プレーがでた試合など、イロイロな試合を楽しめました。



夕闇迫り来る中、帳を切り裂く力強いスイング

大会がこれからも継続して開催されるように、若い力で盛り上げていきたいと思えます。

来年の大会では、オリジナルチームでの出場、最多

得点チームになること、最多出場選手になることを目標に、眠気に負けず、体力が続く限り、二十四時間全力で楽しみたいと思えます。

### 段丘

パソコン、携帯電話、インターネット、各種ロボット等、我々の子供時代には思いも付かなかったような技術が次々と実現している。

また身近なところでは十三年後に開通予定のリニアモーター新幹線、遠くない将来に実現するであろう宇宙旅行、自動運転自動車など夢が膨らみ、我々大人でもわくわくする。

障害物の検知・人工知能による自動車事故の撲滅、ロボットの災害現場への投入による被災者の救助、介護用ロボットによる介護の支援、医療現場での新機器及び手術補助ロボット、農業分野、建築分野等での各種技術革新、情報伝達の瞬時化による各種対応の多様化など効用が多いが、その一方で人間が墮落していくのではないかとという心配な側面もある。ワープロの進化で漢字を忘れてしまふ、考えることをしなくなる、リモコンに慣れてしまえば動かすのが億劫になる等。更にこれらの技術を悪用する輩がいることは本当に腹立たしいし、この対応の為に莫大な費用が掛かっており非常なロスとなっている。

人間が機械に使われるのではなく、機械を使う側にならなくてはならない。「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」で、結局は便利な技術を人の判断で何処で使用するかを見極めることだと思ふ。  
 (桐崎長一)

寄稿

# 戦後70周年に寄せて

今年には終戦から七十年という節目の年です。戦災体験者が高齢となり、戦後世代が多数を占める中、今、改めて戦争とはどういうものか、平和とはいかに築くものかが問われています。館報編集委員会では、戦争の実態や平和への思いを次世代へ継承するため、「戦後70周年に寄せて」と題し、皆様からの「寄稿を募集いたしました。その結果、多くの方から「意見や提言をお寄せいただきましたので、今月号と次月号に掲載させていただきます。」

**戦後70周年に寄せて**  
九十歳男性 匿名希望

二十一歳の時、徴兵検査を受け入隊を命じられました。六人兄弟の次男として生まれ、貧しいながらも特に不自由と感じることも無く過ごしていました。戦時下の中、薄々覚悟はしていましたが、突然の検査通知が届き否応なく受検したのです。同じ部落の仲間数人と一緒に向かったのは富山でした。一年半の間、毎日の訓練が本当に恐ろしかったです。同郷の仲間がいたからこそ耐えられたのだと思っています。

やがて終戦となり故郷へ帰って来た時、「ああ、これで苦しい思いをしなくて済む」としみじみ思ったものです。しかし暫くは食糧難が続き配給制度故に満足な食事が取れない状態でした。兄弟は今も全員健在ですが、当時の嫌な思いがあるため、思い出したくない気持ちが強く、お互いに戦争の話はほとんどすることはありません。

現在日本は一見平和に見えます。それはそれで良いのですが、心底平和なのかと疑問に思えることもあり。昔では考えられなかったような、恐ろしくもあり、また平和げではないかと思えるような事件が起こっ

ています。更に世界の各地では同じ民族同士による戦争が続いています。本当に不幸で悲しいことです。戦争の無い、真の平和が早く訪れて欲しいと願うばかりです。

**戦後70周年を迎えて**  
伴野原 声部キヌ子

昭和十八年、小学校へ入学しました。戦争中の着る物もない食べる物もない時代にお母さんがはたおりを着てセーラー服上下を作ってくれ、入学式に着て行く事が出来ました。今は、亡き母に感謝します。

毎日毎日学校の行き帰りにB29が空をとんでいました。学校へ行くには防空ズキンを肩にかけていきました。学校の校庭には防空壕がほられてありました。私は農家に生まれたので毎日学校へ弁当を持って行きました。非農家の人は弁当がわりにさつまいもを持ってきました。ある日先生から明日から弁当のかわりにさつまいも持ってくるようにと言われました。学校の帰りに道ばたの野いちごなど、食べられる物は何でも食べました。夜は電灯の回りにふるしきをかけ明かりが外にもれないように白いかべはどろやすみをぬり敵に見つからないようにしました。

**傷痍軍人さん**  
小園 大澤俊郎

いわゆる戦中派の私が小学校二年生の頃、母親に連れられて座光寺の如来様へお参りに行った時の記憶を辿って記してみたいと思います。

お参りは二の次、何か買ってもらえる事が嬉しくてついでに買ったものでした。参道の両側には露天が並び、い並んでおり、その脇で白いマントを着た、片手や片足のないおじさんが一人、または二、三人でハモニカを吹いていました。そのおじさんたちの前にはカゴには十円札が何枚か入っていました。「このおじさん達は傷痍軍人といって、戦争で弾が当たって手や足がなくなつてしまつたんだ」と母親から教えられたことを覚えています。

私の父は、私が四歳の時病気で死んでしまったので、その時は「手がなくてもお父さんは居たほうが良いなあ」と子供心に思ったものでした。

昭和二十二年入学の私達は、「国民学校初等科」が新学制により「小学校」に変わった第一期生であり、クラスの中にも外にも戦争の

傷跡は多く残っていました。物資は乏しく、四十四人居たクラスに布製のカバンが九個配給、くじ引きで当たらなかった多くの生徒はふるしきに教科書を包んで通学したのでした。

戦争で父親を亡くした生徒もクラスで数人おり、私も母子家庭だったので境遇が同じ人と親しく関わったことが思い出されます。

戦後七十年経つた今、安保法案をめぐって国会内外は揺れています。戦争を知らない世代がリーダーの今の日本。特定秘密法、集団的自衛権等、私達が知らない昭和初期の動きに酷似しているとも言われます。七十年前を顧みる時、傷痍軍人など多大な負の遺産を残す戦争はいかなる理由があろうとも絶対にしてはならないとつくづく思う今日この頃です。

可能性は何を意味するのか。このままでは、この紙面発行前の状況です。

戦後七十年、豊かさと平和を、享受してきた我々国民の責任は重いと思う。なぜ、やがてこのような国家に成るであろう事に気づかなかったのか。しかし七十年と言つても前半は荒廃した国土の建て直しで一杯だった事を考えると無理も無かつたのかもしれない。今になつてようやく戦争の悲しさが、つまびらかに語られるようになった。下級将兵の戦争体験者が真実を内に秘めたまま高齢になり、また臨終間際に吐き出さずにはいられない事から明らみに出た真実があまりにも多い。さぞ苦しかった事であろうし、この方々に何の罪もない。今になつて各分野から戦争に加担せざるを得なかつたプロパガンダ利用(宣伝)の事実が堰を切つたように明らかになる。一方で当時の政府高官や内地勤務の軍の高官(関東軍や沖繩守備隊の幹部含む)だった者達は口をつぐんで、戦後何食わぬ顔で政界や財界で再び権威を振るつてきた。その最たる者が、安倍総理の祖父、岸信介で、さらに要職に付いていた戦犯達も次々と復活したのであって、これが自民党の原点である。元戦犯が総理大臣になるなど、よほど日本人は寛容なのか馬鹿なのか、あるいは米国のとの密約があったのか分らない。ドイツではナチ戦犯を今でも追尾している。完結するまでだそうである。恐ろしい。それでもネオナチなるナチ党復活の兆しが

今、国会でまったく喧嘩合わない安保法案、戦争法案が審議されているが、国民の声を雑音としか捉えない安倍総理は間違いなく法案を強行可決するであろう。米国の恫喝まがいの提言に従わなければならないのだらうし、米議会で馬鹿な演説をした事も自分の威信に係わる、衆議院の質疑の中で私が総理大臣だから云々、などと言つて自分があたかも憲法より上に鎮座しているような物言いもしている。総理に国民の声など届くわけがない。こんなトップを持つ国民は不幸である。また総裁選挙が無投票になる

**語られなかった真実**  
北市場三 山本義彦

父の父は、私が四歳の時病気で死んでしまったので、その時は「手がなくてもお父さんは居たほうが良いなあ」と子供心に思ったものでした。

昭和二十二年入学の私達は、「国民学校初等科」が新学制により「小学校」に変わった第一期生であり、クラスの中にも外にも戦争の

シリーズ「元氣な高齢者」⑬

## 文芸に勤しみ年輪を刻む

**中山 壽子さん**  
九十七歳  
柿外土在住

話が進む程、この八月で九十七歳というお年とは信じがたい聡明さが言葉の端々から滲み出てきて驚きの連続であった。

父親の仕事の関係で小学校三年生まで松代で生活した。その後、母親の実家の現在地に戻り、父と別れての二重生活であった。神稲小学校で若い音楽の先生との出会いが壽子さんの人生に大きく影響したように思つた。先生に教えられたのはほとんどが「庭の千草」などの叙情詩だった。他に「琵琶湖周航の歌」が好きだと書いて歌つて下さった。歌

詞もリズムも見事であった。こうして文芸に親しむ友人に恵まれ、人生を大きく左右する俳句の世界に入り込む。此処でも良き指導者の和地先生との出会いで五十年余り俳句の世界に浸り込む。しかも父親も俳句に長じ、御主人も理解があるうえ、書を嗜み、壽子さんの句を短冊や色紙に認めるなど恵まれた境遇でもあった。こうした俳句を通じ、村内の句友の皆さんとの交友関係も広がり、更に俳句を楽しんだ。

様々な面で御主人と二人三脚の生活を続け共に健康で病氣知らずの人生である。御主人は五年前に百歳の長寿を全うされた。

今一つ忘れられないのが家族の温もりである。六人ければ検定を通過しない、本当の事を書けばその出版社は採用されない馬鹿げた制度である。政府は教科書から戦争など無かつた事にした。特に神経質になっている。大日本帝国国家の回帰がようやく孫の代で出来る事は、鬼籍に入っている岸元は、歴史に学ぶ、賢者は歴史に学ぶ。敗戦になった時、私は国民学校三年であった。勉強嫌いであつた事を差し引いても、教科書から戦争の何たるかはあまり学ばなかつたような気がする。今も政府が気になっている内容でな



のお孫さんの誕生の際には必ずその喜びを句に認めて贈り、七夕には短冊に孫達に贈る句を自身で認めた。その短冊を娘さんが密かに保管して、それを私達に見せて下さった。その優しい気配りに感動して顔写真に写させていただいた。

若い頃からバイクなど運転することもなく、専らよく歩いた。読み書きが好き、今でも新聞をよく読む。三世代揃つて支え合い、温もり家庭に感謝である。更に家の入り口に屋敷神として稲荷神社の鳥居を祀るそのそばに古いシユロが二本ある。そこで一句。

百年の花かざし合う  
夫婦シユロ 壽子  
文責 桐崎 長一  
日下部富次

いや正確には一党独裁の下に役に立たないブレーキが一個付いているが何とか修理出来ないものか。さすれば状況が変わるかもしれない。それには部品の供給の問題か？

今になつて、(九月一日現在) 各分野、各地域、各団体の反対運動が、特に若い層に浸透しつつあるが、なぜもともと早く、思うのは私、ただであらうか。もう、遅いと言いたい。が一筋の光明を期待し、私の記述が杞憂に終わればいい事を念じつつペンを置く。

# 分館 納涼祭

## 特集 第2弾

### 第1分館

分館長 越野清司

第二十三回河野夏まつりを八月十五日に北小学校のグラウンドを会場に開催いたしました。

今年北小体育館の天井改修工事期間中の開催となり、例年サブ会場として利用してきた体育館が使えず、河野夏まつりとしては初の昼間開催を試みてみました。

朝から酷暑の当日、七十六名のスタッフで準備をいたしました。区民が関わっている地元四つの団体に会場を盛り上げて頂き、メインである盆踊りは昭和五十六年に「河野音頭」をレコーディングした当時の歌い手さんに生歌を依頼、「剛ズ・バンド」による生演奏の中、来場者全員による河野音頭の舞がより一層祭りを盛り



河野音頭を熱唱する歌い手の皆さん

上げました。ここ数年、従来の祭りスタイルに変化を持たせてきましたが、ますます区民の方々が楽しみにしてくれ、地域に浸透する祭り作りを継続出来れば、地域の活性化に繋がると考えています。

### 第5分館

分館長 福島昭治

毎年夏の最大イベント分館納涼祭を八月一日(土)に堀越区民会館で行ないました。午後一時三十分役員集合で会場の設営を行ない、午後六時三十分開演となり、おかげ様で夕立や急な雨降りなどなく大変暑い中での納涼祭となりました。出店では綿菓子、カキ氷、金魚すくい、輪投げ、生ビール、ジュース、焼き物など



息の合った踊りを披露する桜松林

の部所も対応に大わらわでした。御興会、桜松林の踊り等で大変会場が盛り上がり天気も良く約百二十名位の参加者がありました。テーブルでは五〇〇円で生ビール飲み放題、イカ、モロコシ、シブランクフルトを食べ、若い人達から年配の人達まで皆で楽しく会話をしたり情報交換をしたり親睦を深めたりし、最高の会場だったと思います。また今年堀越音頭を輪になって踊り楽しいひとときでした。午後八時ころにはビンゴゲーム、八時三十分から宝投げで約三百六十個のポケットティッシュに番号札と色紙を入れ三人で投げました。ポケットティッシュを拾えば商品が貰える、これも大いに盛り上がりました。こ

### 第6分館

分館長 唐沢伸

八月十五日、恒例の佐原納涼祭を開催しました。今年はいくつもの方達に来ていただき、この歌謡ショーを納涼祭の前半に企画しました。いつもより一時間早く開始したので、出だしは悪かったのですが次第に多くの人が来ていただき最後は大盛況でした。城さんは、歌もうまく、会話も楽しく、あつという間の一時間でした。普段生で聞くことが少ない私達にとっても感動しました。その後は恒例のカラオケ大会を行い、プロの音響を使わせていただき、いつもより大変良い歌声でした。最後は抽選会をし、多くの方達に賞品が当り大盛り上がりの中に終了しました。



城めぐみさん(中央)と記念の握手

た。今後も地域を活性化できるような事業をどんどん取り入れて行きたいとおもいます。

### 第7分館

分館長 高田晴仁

八月一日、壬生沢・福島納涼祭が集落拠点施設にて開催されました。大勢の方が毎年楽しみにしており、席はあつという間に満席となりました。今年、福島・本村前田の酒米で作った日本酒「牡丹獅子」を用意したところ大盛況でした。また、地元の猟友会の方に毎年用意していたいただきますジビエ肉、焼きそば、五平餅、焼き鳥、シブランクフルトなど、大好評にて長い行列ができ、役員だけでは対応できない



夢中になって金魚をすくう子供たち

ため、地元の方々にもお手伝いをお願いしました。金魚すくいは、大人も子供も夢中になり、暑い夏のひと時を満喫しているようでした。最後に全員参加のビンゴゲーム。ビンゴ!と大きな喜びの声!笑顔で小走りに商品をいただきにくる姿に納涼祭を盛り上げていただきました。最後になりましたが、関係者の皆様方をはじめ、区民の皆様方のご協力に感謝申し上げます。今後の納涼祭にして頂きたいと思っております。

## 9月は防災月間 備えあれば憂いなし

九月一日の防災の日を前に、村の総合防災訓練が八月三十日(日)に行なわれた。今年の訓練は、台風の影響による土砂災害や河川の増水による堤防の決壊などを想定。区や自治会では、避難訓練をはじめ、初期消火訓練、炊き出し訓練、AED(自動体外式除細動器)の取り扱い訓練などを行なった。また、消防団と役場職員は災害備蓄品の運搬訓練を実施した。

### 互助のしくみが急務 づくりが急務

河野区総務委員長 毛涯雅明

八月三十日、村の総合防災訓練が行われ、河野区でも村の想定に基づき、災害対策本部を河野区民会館に置き、区の役員、自主消防隊、消防団、日赤奉仕団、各自治会が参加しての訓練が実施された。

各自治会からの避難状況報告もスムーズに実施され、区長への報告では、戸数で三七五戸(七十七%)人員では四八二人が避難し、その結果は衛星携帯電話にて村の対策本部へ報告された。日赤奉仕団と各自治会の炊き出し班の皆さんによる炊き出し訓練では、参加者全員の協力で六十食余りの

おにぎりや味噌汁が短時間のうちに出来上がり、非常時の炊き出しについて、多くの区民が経験しておくことの必要性があらためて認識された。新設された河野区消防隊と、消防団第一分団との合同訓練は雨天のため延期となったが、両者が協力連携することへの区民の期待は大きい。

災害時は自分で身を守るという「自助」が原則だが、一番重要なことは、近所で助け合う「互助」であり、「互助」のしくみを確立し、個々の防災意識を高める取り組みが今後の課題となっている。河野区ではAEDが3カ所に配備され、救命講習会では六十名が受講するなど関心が高まっているが、さらに多くの区民に受講してもらい、災害時だけでなく普段の生活の中での「安心安全」の確保に一層努めて行きたいと考えている。

こちら資料館 156

村の宝

アズキ 庄痕土器

先月、新聞やテレビで大々的に報道されましたが、昭和五一年、伴野原遺跡で発掘された縄文土器から約三〇〇粒のアズキの庄痕(種子の痕跡)が確認されました。一個の土器に含まれる豆類としては国内最多で、今後全国の注目を集めることになりそうです。

この土器については、明治大学の会田進先生のグループが昨年より調査を進めて来ましたが、その結果発表が八月二〇日に「ゆめあるて」で行われました。

肉眼では一八五粒しか確認できなかった庄痕ですが、X線によって二二〇粒近くが新たに見つかりました。また、種子はレプリカ法(シリコン等を庄痕に詰めて型取りをする方法)でアズキと同定されました。種子の大きさは野生種よりやや大きめですが、焼くことによる膨張もあるので、さらに研究が必要とのことです。なぜ多量のアズキを練り



調査結果の発表をする会田進先生(中央)

込んだ土器が作られたかは謎ですが、同じ住居跡から出土した「パン状炭化物」同様、縄文中期(四千〜四千五百年前)に作物の栽培が行われていた可能性に迫る貴重な資料が新たに加わったわけですね。村の宝がまた一つ増えました。

実物は現在「資料館一階」で公開中です。(資料館主任 唐澤武彦)

### 村制60周年記念文化事業

## 10月は「あづきが寄席へ」

今年も芸術の秋にとよおか寄席がやって来ます。文化事業実行委員会では二度寄席を開催しています。

- とき 十月二十五日(日)
- 開場 十三時三十分
- 開演 十四時〇〇分
- ところ 豊丘村交流学習センターゆめあて 大ホール
- 前売券 一般 千円
- 高校生以下 五百円
- お問合せ 豊丘村公民館 三三五一九〇六六



鏡味千代さん



笑福亭鶴光師匠

3年目を終えた通学合宿

裏方さんたちの活躍

1 短大生

慈恵園職員・編集委員 能谷由紀乃

今年も六月から慈恵園では通学合宿が行われました。通学合宿は、豊丘南・北小

また、地域貢献ということ、村に費用を負担していただいています。これらの意味があることから、とても充実した行事となっています。

通学合宿の意味は二つあります。一つは、通学合宿は小学生四年生全員参加するということ、学校生活以外での様子を小学校の先生方に伝えることができ

通学合宿では、施設の職員のほか、飯田女子短期大学の学生がボランティアにきてもらっています。飯田出身の河井綾香さんは子ども達の様子を「普段の生活では親にしてもらっていた子でも、ここでは自分たちで自分のことをしていたの

二度できるかどうかですが、お互いの技術向上の為に指摘しあったり、時には飛び出した珍プレーに大笑いしながら普段から楽しく練習している事もありチームワークはばっちりです。

今年の通学合宿は九月で終わり。来年の通学合宿でも、沢山の子ども達が慈恵園にきてくれることを楽しみに待っています。



寝食を共にしながら子どもたちをサポート(右奥:福沢理乃さん)

また小学四年生の時期は、自分自身の性格に気づき、疑問を持ち始め、修正をしていく時期となります。よって、他人と一緒に暮らすことで、社会性を身につける良い刺激となり、家庭にとっても価値がある行事となっています。二つめは、児童養護施設からの利点です。施設を開放することで、慈恵園はどんな所か、多くの子に理解してもらえます。

夜間ソフトバレー

女子の部 優勝

河野フレンドB

郷原和美

私達「河野フレンド」は、この夜間ソフトバレー大会に「期間中一ゲームでも出れるなら」と声をかけ、今年全員が三チームに分かれて練習は大会前、

大会は、体育館や大会独自の雰囲気、ボールの違い、いつも一緒に練習している仲間との対戦もあり、試合毎に違う緊張感に戸惑

う事もありましたが、チームの仲間同士が声を掛け合った事で、私達「河野フレンドBチーム」が全勝優勝という良い結果を残す事ができたと思います。

他チームとの交流ができ、日頃の練習の成果を試す事ができるこの大会に、これからも積極的に参加していきたいと思

四十株の馬鈴薯掘りは朝作りひと日一畝五日もかけて 富永 博道

豊丘の自然

~シリーズ~ No.143

ミヤマサナエ (サナエトンボ科)



前号のつづきを書く。その前に、ヤクルトの山田哲人内野手の「史上九人目の快拳(打率三割本塁打三十本、三十盗塁)」の記事を目にしたことをここに記す。

私も伊藤先生の「五百四十六ポイントで六十三種類を確認」へあと一歩のところまで来た。九月六日現在、「五百十七ポイントで六十二種類」ところで、ここに紹介



したミヤマサナエは天龍村で撮ったもの。でも、安心して下さい。五十七年前の昭和三十三年、豊丘村でも確認されていますから。

それにしても、最近見かけないからと言って、すぐ「絶滅」とか「絶滅危惧」と言う。「トンボ相の変化」と、とらえた方がよいのではないかと私は思うのですが。(山田 拓)

夜間ソフトバレー

ボール大会 結果

女子の部

優勝 河野フレンドB

準優勝 ミルキー

三位 河野フレンドC

混合の部

優勝 カッターズ

準優勝 バストA

三位 ウエスト

俳句 短歌

鬼灯の色調いて地をそめる いしほとけ天蓋と映ゆ百日紅 高原の風に遊ぶや赤とんぼ 抱かれるる犬の眼に葉月晴 夏草に負けじと伸びる庭の花 画学生を無言にさせて又の夏 沙羅の花惜しみなく散り花座敷 勘介の懸崖崩る夏の果 老杉や蝉の声ふる保育園 白洲家の茅葺屋根に蝉時雨 夏の暁窓開け放ち深呼吸 木に幾度いのち吹きこむ法師蟬

短歌会 夢あるて

団欒の家族のなかに笑顔わくこの和やかな雰囲気が好き 立山の鳶崩れを治めたる土木遺産を同志と学びぬ 穂孕みの青田いちめん朝露の葉にちりばむるミクロの虹よ 創作のにんぎょうげきを演じ終え顔ほころびぬ小三の孫ら 歳の差は九十六なり「ハトポツポ」曾孫に歌いて母笑顔なり 四十株の馬鈴薯掘りは朝作りひと日一畝五日もかけて

八日念

意志有るが如くに吾にまつわりぬ薄羽かげろうだれの使いか 夏じゆうの暑さに耐えし百日草秋陽になおも色鮮やかに 万葉の歌碑は薄れて読み難く平成の雨にひたひた濡るる 網戸よりカツコウの声に目覚めて今日の日課の玄関掃除を 雨上りの庭に花壇を作らんと土を運べりおもいをめぐらす

あしたば短歌会

朝顔の蔓を見るたび浮かび来る心優しき加賀の千代女の句 朝露にぬれしつゆ草鮮やかに濃き紫の目にしみる朝 シュワシュワとサイダーの泡沫飛び散りて喉越しのよき暑さ忘れる 浮きうきと疎外さること夏雲を押し上げて咲く百日紅の花 「ママがいい」喧嘩に負けた末っ子は婆のなだめを振り切りて泣く 円空の古拙な像の鑿のあと微笑みに逢ふ美濃の山寺

豊丘川柳クラブ豊柳会

▼課題「思」久保ひろし 選 忸怩たる思い心にしまい込む 林 桃子 へそくりがいつも見つかる不思議な 小澤 凛 ほんろい思出あまた青春譜 桃沢 健介 軸吟：思出の引き出しの鍵写真帳 ▼課題「天一」互選 天に唾我が身に落ちて恥を知る 久保ひろし 天地に太い血管農一途 市沢 照子 気を抜くな天とう様が見てこざる 吉川 療 ▼自由吟 桃沢健介 選 安倍談話衣まとしてしゃあしゃあと福沢 勝美 縄文にあずきのロマン馳せてみる 原 美風 九条をへし折らないで民さけぶ 西元 峯子 軸吟：中国のクジラ暴れて四海荒れ